

令和6年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第2号 (5月予報)

○向こう1か月の天候の見通し (令和6年4月25日発表：沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	多い	ほぼ平年並

○5月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
カンシヨ	① イモキバガ	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ) (株出し)	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移 (↗)
(タカナンカキンツ)	① かいよう病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	② ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
マンガ	① ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
(ピシマン)	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② ミナミキイロアザミウマ	やや多	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	③ タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	④ ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャコバナナガカメムシ	発生程度が南大東島及び久米島で多であった（防除員報告）。葉鞘の隙間を確認し1茎当たり20頭を超える場合は直ちに薬剤防除を行う。
	バッタ類	発生程度が久米島で多、南大東島で中であった（防除員報告）。タイワンツチイナゴやトノサマバッタの成虫密度が高い傾向である。卵からふ化した幼虫が発生してくる時期なので防除を徹底する必要がある。ほ場内や周辺の雑草除去や若齢幼虫期の薬剤散布を徹底する。
（温州ミカン）	ミカンハモグリガ	新梢にミカンハモグリガの寄生が多く見られた。被害葉はかいよう病の発生源になりやすいので不要な新梢は除去する。
（タカシカ）	ミカンハモグリガ	新梢にミカンハモグリガの寄生が多く見られた。被害葉はかいよう病の発生源になりやすいので不要な新梢は除去する。
	カミキリムシ	発生程度が今帰仁、本部、名護で多であった（防除員報告）。見つけ次第、成虫の捕殺、幼虫の刺殺を行う。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。

令和6年度 宮古群島 病害虫発生予報 第2号 (5月予報)

○向こう1か月の天候の見通し (令和6年4月25日発表：沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	多い	ほぼ平年並

○5月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ) (株出し)	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② ハダニ類	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
オクラ	① アブラムシ類	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	→	並	平年の発生量の推移 (→)
(施設ウリ)	① うどんこ病	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
	② 斑点病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
	④ タバココナジラミ	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○5月の発生予報つづき（宮古群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
（施設・とうがん 立体栽培）	①	うどんこ病	やや多	↗	並	例年の発生量の推移（↗）
	②	ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	例年の発生量の推移（↗）
	③	タバココナジラミ	並	↗	並	例年の発生量の推移（↗）
	④	アブラムシ類	多	→	多	例年の発生量の推移（→）
	⑤	ハモグリバエ類	並	↗	並	例年の発生量の推移（↗）
	⑥	ハダニ類	多	→	多	例年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンガ	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
オクラ	カタツムリ類	樹上に移動し、葉を食害する。樹上に移動すると防除が困難になるため、定植前や作物にかからないようにほ場周辺に登録農薬を処理し、密度を低減する。樹上に移動した場合は捕殺に努める。

令和6年度 八重山群島 病害虫発生予報 第2号（5月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和6年4月25日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	多い	ほぼ平年並

○5月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		4月の発生量 (平年比)	4月からの 増減	5月の発生量 (平年比)	
（1 水 期 稲 ）	① 葉いもち病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② セジロウムカ	並	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）
	③ ツマグロヨコバイ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④ 斑点米カメムシ類	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
さ と う き び	① メイチュウ類（カン シャシクイハマキ・ イネヨトウ）（株出 し）	やや少	→	並	平年の発生量の推移（→）
マ ン ゴ ー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
オ ク ラ	① フタテンミドリヒメヨ コバイ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予察の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	多くのほ場で発生が確認された。大発生するとすす病を併発し生育を阻害する。新植夏植えほ場への定着は春季の大発生の原因になるため、葉裏を確認して初期防除を徹底する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
オクラ	カタツムリ類	樹上に移動し、葉を食害する。樹上に移動すると防除が困難になるため、定植前や作物にかからないようにほ場周辺に登録農薬を処理し、密度を低減する。樹上に移動した場合は捕殺に努める。

向こう1か月の天候の見通し 沖縄地方 (04/27~05/26)

予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多いでしょう。

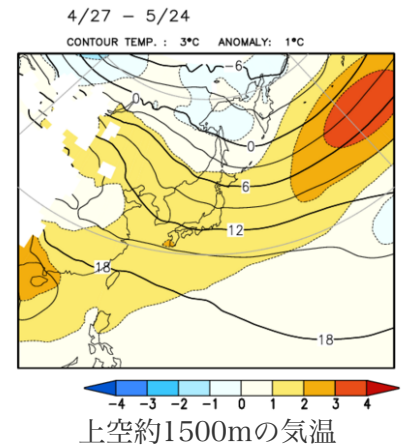
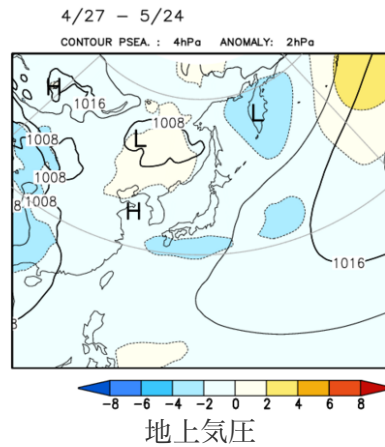
1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温 (1か月)	降水量 (1か月)	日照時間 (1か月)
沖縄地方	低10 並10 高80% 高い見込み	少20 並30 多50% 多い見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率 (%) です	<p>平均気温 (1か月)</p> <p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%) 以上 平年並も40% 以上</p>	<p>降水量 (1か月)</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 以上 平年並も40% 以上</p>	<p>日照時間 (1か月)</p> <p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%) 以上 平年並も40% 以上</p>

数値予報モデルによる予測結果

1か月平均の地上気圧 (左図) は、九州南岸付近を中心に平年より気圧が低いと予測されています。このため、沖縄地方では、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

上空約1500mの気温 (右図) は、日本付近では平年より高く、沖縄地方では暖かい空気に覆われやすいでしょう。



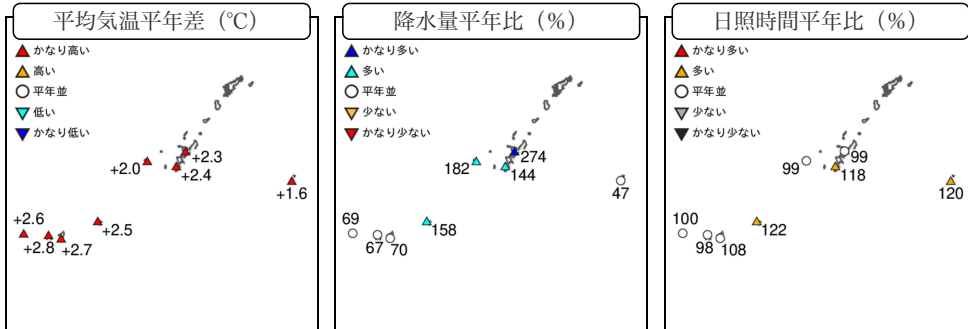
季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します (アンサンブル予報)。多数の結果の平均 (上図など) から大気の状態を判断し、また結果のパラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

	平均気温（1週目） 04/27～05/03	平均気温（2週目） 05/04～05/10	平均気温（3～4週目） 05/11～05/24
週別の天気	前線や湿った空気の影響を受けやすいため、雨の日が多いでしょう。	前線や湿った空気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
沖縄地方	低10 並10 高80% 高い見込み	低10 並30 高60% 高い見込み	低10 並30 高60% 高い見込み
数値は予想される出現確率（%）です	<p>平均気温（1週目）</p> <p>低い確率（%） 50 40 50 高い確率（%） 以上 平年並も40% 以上</p>	<p>平均気温（2週目）</p> <p>低い確率（%） 50 40 50 高い確率（%） 以上 平年並も40% 以上</p>	<p>平均気温（3～4週目）</p> <p>低い確率（%） 50 40 50 高い確率（%） 以上 平年並も40% 以上</p>

明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>) を参照してください。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、参考資料 (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfst/sankou/okinawa1.html>) をご覧ください。文章による解説については、確率の大きさに応じた言葉で表現しています。詳しくは本資料末尾の「参考（確率予報の解説）」をご覧ください。

最近1週間の天気経過



（実況）04/18～04/24	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
沖縄地方	+2.5℃（かなり高い）	138%（多い）	106%（平年並）

参考

確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い） 確率が50%以上	高い（多い）見込み
（20：40：40）	平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が50%以上	平年並の見込み
（40：30：30） （30：40：30） （30：30：40）	ほぼ平年並の見込み
（40：40：20）	平年並か低い（少ない）見込み
低い（少ない） 確率が50%以上	低い（少ない）見込み

気温・降水量・日照時間等の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/okinawa1.html>



天気日数（晴れ日数及び降水日数）の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/tenkinissuu/tenkinissuu.html>

